

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月1日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3272200548		
法人名	株式会社ケイテン		
事業所名	グループホームさち		
所在地	島根県隠岐郡隠岐の島町栄町572 (電話) 08512-2-0121		
評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	松江市白潟本町43番地松江市民活動センター3F		
訪問調査日	平成19年10月26日	評価確定日	平成19年12月3日

【情報提供票より】(平成19年9月30日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成17年4月14日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	19人	常勤	8人, 非常勤 11人, 常勤換算 9.4人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	2階建ての ～2階部分		

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円	その他の経費(月額)	7,750円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	250円	昼食 350円
	夕食	350円	おやつ 100円
	または1日当たり 円		

## (4) 利用者の概要(9月30日現在)

利用者人数	18名	男性	1名	女性	17名
要介護1	4	要介護2	5		
要介護3	5	要介護4	3		
要介護5	1	要支援2			
年齢	平均 84.6歳	最低	73歳	最高	92歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	半田内科クリニック
---------	-----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホーム玄関中央には【敬天愛人】の額が掲げられ～天を敬うように人を愛す～の心が理念の基になっている。職員もよくその心を共有し穏やかなサービスを提供している。隠岐の島という地域性もあり、地域との交流も日常的にあり、利用者は安らぎのある生活を送っている。近くには住宅地や学校があるので、ホームの前を行き交う車や通学生の姿に生活感を感じることができる。敷地は広く、広いテラスや畑などは憩い空間でもあり、利用者の笑顔がほのぼのとした「わがとこ～自分の家」感がいっぱいのホームである。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回、健康診断・入居者の決定検討・物品管理(薬・洗剤・刃物)・相談・苦情受付等が改善項目であったが、今回はすべて改善されていた。評価を前向きにとらえて、サービス向上に活かそうとしている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員が各ユニットごとに2週間かけて、毎日のカンファレンス等で評価項目ごとに日頃の支援内容を振り返りながら自己評価した。事業主も評価への取り組みに関心をもち、ホームの運営に活かそうと、職員を支援している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回の会議では、ホームでの利用者の生活ぶりや地域交流、行事予告や評価について報告し、それに関して質疑や要望、助言を得ている。今後は、さらなるサービスの向上を目指して、具体的な課題を出し、討議しながら課題解決に役立てたいと考えている。会議の内容は記録され、全職員で共有している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の心配ごとには、よく話しを聞き、現状で対応できることを前向きに実行している。また、終末期の看取りの支援について、早くから個々の家族と話し合い、看取りの事例もある。看護職員が多く、医師との連携がありケアに関する相談がしやすい雰囲気である。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会やホームの行事で相互の交流ができています。また保育園児との交流も定着している。外出が多く地域交流の機会も多い。ホームは子供SOSの家にも指定され、通学児童の見守りの場ともなっている。今後は災害を想定して、地域の協力を得た避難訓練なども期待したい。

## 2. 評価結果

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念を、利用者の立場になって見直した新理念は、「慈愛に満ちた安堵の暮らし」利用者の安らぎのある生活を支えていこうとする事業主と職員全員の心が伝わる。	○	新理念は、家庭的な環境を感じることができが、地域密着型サービスとして住み慣れた地域住民との交流のもとでの生活支援サービスというイメージも検討されたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内数カ所に「理念」を貼り、職員は家庭的なサービス支援に活かしている。利用者のホームでの暮らしを、わがとこ（自分の家という意）に居るような生活に思ってもらえるよう支援している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入。町の行事等に積極的に参加し住民の一員として地域行事（一斉掃除等）に関わる一方、ホームは「子供SOSの家」にも指定されている。またこの夏、ホーム主催の納涼祭では地域の方々とのしく交流できた。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、各ユニットで2週間かけ毎日のカンファレンスで検討したものを管理者とケアマネでまとめた。できあがったものは全職員で確認。外部評価も職員会議で確認後、改善に活かした。運営者も課題を共有している。	○	自己・外部評価をよく理解し、サービス向上に役立てようとしているが、改善した項目についてのメモはあるものの、まとめた記録はない。「改善計画シート」での年次の改善歴作りを望みたい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	議論の活性化のために工夫している。10月の会議では敬老会のビデオを紹介。衣装づくりや練習などの準備や当日の歌や踊りを職員と一緒にする姿に「がんばっている」「あんなこともできるんだ」と好評を得た。	○	今後も様々なアイデアで話題や相談事を用意し推進会議を活用する工夫するとともに参加者の創意を引き出すような運営を望みたい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町から健康体操の案内があり職員が参加したり、保険の手続等でも連携がとれている。運営推進会議のメンバーに地域包括支援センター所長（町職員）が加わっているので、町の情報も入りやすく相談しやすい。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	健康状態に関することは、その都度家族に伝えているが、利用者の日々の生活の様子やお金に関することは、面会時に伝えている。定期的な報告はしていない。	○	年3回発行のホーム便り「わがところ」には、利用者の笑顔の活動風景が写真とコメントで編集され心温まる。毎月の利用料の請求書送付に併せて、個別の近況報告や金銭に関する報告等ができることを期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情対応は管理者とケアマネで対応する。家族から利用者がみんなと一緒に活動できるようにしてほしいと要望があり、声かけを丁寧にして一緒に活動ができるようになった事例もある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員に異動があった場合、新職員には1カ月程度、日勤業務にして利用者との馴染み関係づくりからスタートする。他の業務は、その他の職員がカバーする方法で、利用者へのダメージを防ぐ方法をとっている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業主は職員の研修に理解があり、職員も積極的に研修の機会を利用。島内での研修にはほとんど参加。島外の研修や資格等の研修は本社が支援。ホーム内の研修も毎月1回あり、職員は自らのレベルアップを体感している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	島内の他施設との相互訪問には利用者と共に出かけ、たよりの交換をしたり行事ごとを一緒にしたり、ホームの車で一緒に遠足に出かけたりと、交流活動が盛ん。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所希望があれば家庭訪問。話しを聞いたり様子を見たりして、受け入れ態勢を整えている。家族本位の入所には問題があるので、事前に本人に見学してもらい他の利用者との交流も図って、納得して入所されるよう配慮している。希望者には体験宿泊も可能。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の暮らしの中で、利用者の得意分野を計画的に入れ、力を発揮してもらっている。餅つきは利用者主導で頻繁にあり、畑でも利用者が指導役。鍬を持つと背中がしゃんと伸びる。職員が先生になって、ソックスの足首ゴムで指編み作りの自分用の座布団を作った。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の思いを大切にしながら、センター方式のアセスメントシートに記入。家族から聞いたり、後から分かったことを追加しながらサービス計画に利用している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月1回サービス担当者会議をして、前回のチェックと今回の提案等で情報交換。ケア会議での見直しや状態変化の見直しは、都度関係者にも報告。変更は計画書に赤字で記入。変化がない場合も確認の日付記入している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画の見直しをすすめており個々への対応ができています。医師とも相談し精神安定剤を少なめ今まで足腰が立たなかった方が歩けるようになったり、声かけ・誘導でリハパンから布パンツになったり、外泊もできるようになった事例もある。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	来年からのショートステイの受入を計画。看護職員が多いので、昼夜、安心して支援サービスができる。利用者の誕生日には希望するところへ出かけるサービスもある。外泊も可能だし、通院等も臨機応変に対処できる。	○	ショートステイ受入については、既に担当者がリーダー研修を受けるなど、計画に前向き。実現に期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々の入所前からのかかりつけ医と、協力医の受診支援をしている。今年は町の健康診断を受けたが、待ち時間が長く疲労感があつたので次回からは、かかりつけ医で受けるようにする。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取り介護の具体的方法や、家族の同意書もできている。今後は、家族や医師との連携で、終末期の支援をどのようにしていくのかを、個別に確認していく予定。家族に感謝された看取りの事例2件あり。	○	心のこもった看取り事例は家族やホームの職員に大きな感動を与えた。今後も家族が望む終末期の支援方法を個別に話し合い確認し、よい看取り支援ができることを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	新人研修の中で秘密保持の重要性を学び、日常的なカンファレンスやサービス支援の中でも職員同士が注意しあい、利用者の人格を大切にしようとしている。個人情報等もきちんと管理されて、言葉かけもやさしく丁寧。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や天候等を配慮しながら、畑や花壇、調理、手芸や俳句、ゲームなどを希望に応じて行っている。買物・ドライブ・散歩・図書館・通院等、外出の機会が多く（平均週2回くらい）個々の思いを大切に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	「○○さんのちらし寿司はおいしいね！」と笑顔。苦手な人参をよけている方には「箸さばきがうまいね！」と声かけ。食べ方がゆっくりの方には寄り添って、一緒にゆったり食事。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴でき、時間帯も好きな時に入れる。仲良し入浴する方もある一方、入浴を嫌がる方もある。気ままにしてもらって着替えをこまめにしたり、洗濯も別にする。洗髪は美容院でという方には一週間に1回美容院へと個別ケア。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者の趣味や得意ごとを理解し、個々の好みに応じて畑仕事・手芸・調理などの支援をしている。居室の入口に手作り暖簾がかかったり、ホームの椅子には自慢の指編み座布団が敷かれていて、利用者は誇らしげだった。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候のいい時には戸外へ出る機会が多い。自分の住み慣れた地域をドライブすると、口数が多くなり本音が聞けるので、アセスメントに記入してサービスに活かしている。洗髪は美容院でという方にはその支援も実施中。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	よく出歩く人がいるが、見守り重視しで鍵はかけない。日中はホールで過ごしてもらい、側を離れる場合は、職員同士で声かけあって事故が起きないように見守りしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員は消防署指導の消火訓練を受けている。ホーム1、2階の合同避難訓練等も年1回自主的にしている。日用品の備蓄はない。地域住民の協力を得た避難訓練も未だしていない。	○	地域の協力体制での避難訓練や、災害時の用品等の備蓄が望まれる。避難経路の再確認や、外階段の安全性の点検・工夫、及び救援隊が来るまでの仮避難場所の安全性への配慮を期待したい。
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取は、献立内容や10時と15時のお茶の時間で調整。必要がある方には、間で何回か差し入れ。食べたい物もモニタリングして献立作りに活かしている。1日の食事を記録し、摂取量が少ない方には別食で工夫している。	○	きめこまやかに個々に対応支援されているが、時には栄養士に献立表を見てもらい、アドバイスを受けることが望ましい。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	調理コーナー及び食堂とホールが一体化していきつつろげる雰囲気。日中みんなが一緒に過ごすホールの両側の窓は、一方は花壇付のテラスや畑で季節感を、一方は道路に面し車の動きや通行する人の姿が見られ生活感がある。浴室やトイレも清潔感があるし、玄関も開放的。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入口には屋号表示や利用者の活動写真が貼ってあり私の部屋という感じ。室内には裁縫箱や小ダンス等、馴染みの小物が今までの生活を思わせる。家族の面会時に職員が写真を撮ったりして、家族のつながりを感じるよう気配り支援。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。